按深山中有之人家近處希有也至晩景鳴聲寂寥

〔重修本草綱目啓蒙二十八化生蟲〕蚱蟬○中略

茅蜩ハヒグラシ和名鈔　クツワゼミ上總　カナカナ同上　大サ蟪蛄ノ如ク身色淡褐ト淺黑ト相雜リテ綠條アリ、長サ六分許、羽ハ長ク、身ニ倍シテ、スキトヲレリ、此蟬ハ山中ニ在リ、必申剋ヨリ鳴ク、又早朝ニモ鳴ク、

〔萬葉集八夏雜歌〕大伴家持晩蟬歌一首

隱耳居者鬱悒奈具左武登出立聞者來鳴日晩

〔萬葉集十夏雜歌〕詠蟬

默然毛將有時母鳴奈武日晩乃物念時爾鳴管本名

〔萬葉集十秋雜歌〕詠蟬

暮影來鳴日晩之幾許毎日聞跡不足音可聞

〔源氏物語三十九夕霧〕日いりがたになりゆくに、そらのけしきもあはれにきりわたりて、山のかげはをぐらき心ちするに、ひぐらしなきしきりて、かきほにおふるなでしこのうちなびきけるいろもおかしうみゆ、

〔異本枕草子〕七月十よかばかりの日ざかりのいみじうあつきに、おきふしいつしか夕すゞみにもなりなんと思ふほどに、やう〳〵くれかたになて、日ぐらしのはなやかになきいでつる聲ききつるこそ、物よりことにあはれにうれしけれ、

〔蜻蛉日記中ノ上〕やまみちにいたりかゝれば、さかのはてばかりになりにたり、ひぐらしさかりとなきみちたり、きけばかくぞおぼえける、

なきかへるこゑぞきほひて聞ゆなるまちやたつらんせきのひぐらし、とのみいへる、人には